明治四十一年十二月十五日第三種郵便物認可　(日刊)　月曜及祭日の翌日休刊　明治四十四年二月十六日　(木曜日)　第六百廿七號　(一)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)
發行所 京城新報社

時間表
南大門間

雜報

森安博士の講演(六)

◀ペスト豫防心得▶

ペストは以上述べました如く三種類で御座います夫でペスト黴菌は人間の身體に這入る門戸が二つある第一は皮膚から這入り第二は呼吸器から這入るのであります併し此ペスト病の蔓延するはどう云ふ風な方法であるかと云ふと之は患者自身によりて蔓延するか或は間接に患者から汚された汚物であるとか或は患者の用ゐた器具であるとか寢具であるとか云ふやうなものより傳播を致しますが殊にペストを廣く蔓延させるのは鼠であります佛蘭西のエルサンが申まするに蠅も傳播すると言はれたがこれは餘り恐れるに足らない樣に思ふ夫で傳播の徑路を見ますと山間の淋しき處は全く無いのであつてペスト病は何時でも繁華な道を通つて行く一國から廣かるのには海路であります船の中にペストに罹りた鼠が居るとかペスト患者が居るとかすると船が港に這入つて來て追々に内地に流行するのであります始めには港が侵され夫れから段々に其國の内部に這入るので御座います之れは虎列拉病の流行とは少し違ひます虎列拉は一時に多人數が犯され忽ちにして消散します即ち爆發的ですペストは徐々と罹つて行つて終に流行の頂上に達して又段々と下火になる換言せば虎列拉の樣に一時に廣がつて一時に消へるものではありませぬ故に之れを撲滅すると云ふ事は非常に困難の仕事であります御承知の通り英國の印度に於けるペスト調査會は之れを撲滅しようと思つて大々的の計畫を以て是迄數十年間やつて居りまするが今では印度の全體あたりではどうしてもペストの侵害を免れることが出來ませぬが實に執固いものです是れは次に詳しく申上たいのは鼠の傳播であります之は今迄種々の研究の結果によつて爭ふべからざる事實でありますそれで其鼠は三種類あります即ち溝鼠、家に居る鼠、第三歐羅巴に居るので日本には澤山ありませぬがアレキサンドリヤの鼠此鼠は船の中に住んで之は何處へでも廣がつて居る斯樣に此三種類の鼠が媒介になります夫れから二十日鼠之れは餘り傳播しない扨惡しいのは此ペストが這入る乾度鼠が先きに死ぬるので何處でもペスト病の本家本元では此鼠が死にますと土人は非常に恐れて親子兄弟相携へ申合たように其處から他に移轉して仕舞ひます之れは臺灣邊では鼠疫と言つて大に恐れて居るのであります鼠のペスト流行と云ふもの實に非常に激しいので御座いますさうして鼠の流行が激しいかと云ふことを研究致しますと御承知の通り鼠が病氣を致しまして死にますと他の鼠が寄り合つて食つて終ひますそんな風であるから甲から乙と外の者に段々と傳染するので御座います夫で非常に早く傳播し易いそして夫の排泄物でありますが殊に鼠の排泄物の中には非常に多くの黴菌を含んで居ます殊に死ぬる前の鼠と云ふものは非常に黴菌が多くあつて其黴菌の力が强いさう云ふものが仲立となつて傳染をするのであります此處に於てか佛蘭西人ジモレド氏が斯う云ふ事を研究致しました

●李王家の系譜

朝鮮

李王家の系譜に關しては過般來山口圖書頭井上賴圀の兩氏が勅命を蒙りて材料を蒐集し目下編纂中にて遠からず脫稿の上は勅裁を經て王譜に登録する由なるが其概要を聞くに今を距ること約六百年前蒙古の起て支那を統一するや當時の高麗國は之れが爲めに制壓を受くること甚しく且内部にも權臣の跋扈するあり王室甚だ衰微したり時に李成桂なるものあり王家の爲めに遼東(今の南滿州)を征服して威望國内に高かりしが遂に高麗に代りて王位に即き都を松京(今の開城府)に定め國號を朝鮮と改め壽昌宮と稱したり此の成桂は即ち李朝の始祖太祖康獻王にして時に我紀元二千九十二年の七月十六日なりき爾後相傳ふること五百十九年代を歴んて二十五歟にして昨年八月に至り日本に併合され一切の統治權を帝國に讓與したるなり李王年齒正に三十八

●帝國產業博覽會

來る三月十日より名古屋市に開催の帝國產業博覽會は其後各方面より出品申込締出し規模の大体も決定したるを以て昨年關西府縣聯合大共進會を開設したる鶴舞公園に開會するとなり目下電車及鐵道の料金割引交渉中にて同總裁には貴族院議員伯爵柳原義光君にて伯は同會開設當時臨場と確定し與出品に對する賞狀は和洋文二通を交付する筈なるが同會役員は會長正五位勳三等前市長青山朗副會長鈴木寅松名譽委員長早川龍介常務委員本多勇雄委員長今枝庄一郎會計主任松本芳市出品主任高木鐵次郞の諸氏並に名譽委員二百七十一名常務委員八十名委員三百二十名にて出品申込は名古屋市中區新柳町七丁目帝國產業博覽會事務所宛の由

●貨幣發行高週報

二月五日より十一日に至る貨幣發行高左の如し

銀行券總發行平均高	一九、〇二七、一〇〇
內	
正貨準備發行平均高	六、五六七、八九三
保證準備發行平均高	一二、四五九、二〇七
硬貨發行高(二月十一日現在)	八、〇一五、一一五
內	
金貨貳拾圓	一、八五〇、〇〇〇
同拾圓	五〇、〇〇〇
同五圓	五〇、〇〇〇
銀貨五拾錢	一、三一〇、五〇〇
同貳拾錢	一、一二四、〇〇〇
同拾錢	一、八四四、〇〇〇
白銅貨五錢	五五七、七五〇
靑銅貨壹錢	三四四、四〇〇
同五厘	八五、二六五

◎新刊紹介

△新民家庭● 報德會の機關雜誌にして家庭雜誌界の華なり其第二編第二號は例により趣味津々一段の進境を認むるは大に多とすべし(報德會)

△實業世界● 体裁優美の小雜誌當代文士の寄稿錦上花を添ゆ(三星堂)

△有價證券月報● 野村商店調査部の編纂にして放資家の好伴侶(同商店)

△東京經濟雜誌● 十一日發行鼎軒先生傳は自由航業論の一節に筆を染め先生の面目躍如たり(同社)

△ペスト豫防講演● 總督府醫院長藤田嗣章氏及博士森安連吉氏の講演筆記にして吾社が曩に連載せしもの時節柄何人も一讀を要すべし(京城速記會)

俳句

●漢陽吟社發句集

立春や母も旅立伊勢詣　朝松
立春や人の心も長閑なる　都天女
立春や一夜に變る人心　朝月
立春や雪を押ゆる松の色　思走
牛子も今日は殿堂の餘寒哉　朝松
立春や山より下る僧一人　鬩人
春立や松に鶴舞高麗の山　思走
未だ牛の鼻先白き餘寒哉　悟竹
手袋もまだ離されぬ餘寒哉　朝月

人
雪も解け氷もとけて春立ぬ　都天女

地
立春や障子つくらふ梅の宿　牛歡

天
梅折た手の早いたむ餘寒哉　同人

自句
骨に徹るやうそ餘寒の夜の風　翠雲



召使れ初

(二)の一　碧瑠璃園

廣くは無き庭に春風は戰るほど吹きて一本櫻今日を盛りに咲き亂れぬ、荒れたれど垣の下には菫蒲公英、老てはあれど花の間には鶯鳴きて、春も早やこぞ目ぬし、竹緣頭に古き膳部持ち出で、蕪膾、燒味噌、外に二種ほどの小皿物併べて、手酌の盃白傾くるは、此家の主人正木佐五右衛門なり、四十の坂を七八越ゑたる年配、長の貧苦に窶れてはあれど、眼の光り尋常ならず輝き、尖りたる頰に昔氣質の色見ゑて、浪人ながら武士の道は外すまじき器量酒に濁る眼を奥の間へ與れて、

「誰ぞ居らぬか、これよ〳〵」と大聲に呼び立てぬ

「はい〳〵」と詞輕う、紅打紐の襷外しつゝ、破襖引き開けて、笑顔見するは妻のお力なり、年は三十八の姥櫻、淋しい笑顔にまだ殘る色香を包みて、「お呼び遊ばしてござりまする歟」

「いかにも呼んだ、ちつと頼ひことがある」と云ひたれど後の詞は續かず、

「庭の櫻今日が、盛りぢや喃」

「今朝も仰せござりました、何とも申さうやうの無い美しさでござります」

「花は蕾の間から待て、この一時の盛りを見る、是が命ぢや、美しいの」

「斯う居に照た花の景色は、譬へる物もない妖艶さでござります」

「此の妖艶な粧ひも、明日に霞れば塵と散り行く、今日一日ぢや」

「私、仕掛けた用事ござります、の次第仰せ聞けござりませ」とお[illegible]襖の間に躊つて、黒瞳勝の目を圓うしぬ

「誰か見ゑぬ、何うしたの」

「お手習ひ精出して居ります」

「手習ひは明日でも爲きゑ、花を見に來れば可いの」

「花よりはお手習ひ、美しいを目に見るよりも、役に立つを心に見るが、後の幸福でござります」

「こりや痛いことを申すの」

「道は修業盛り、あなたは初老を過ぎさせたれ身、月花を樂まするが當然でござります」

「いや〳〵」と思ひ切つたるやうに、膳の側の瓶子を振て「月よりは是ぢや花よりは是ぢや、此方の情を待つ」

「何の御用かと思へば、それの御催促でござりまするか喃」

「推察の通りぢや、是が無うては夜も日も明けぬ、多くは頼まぬ、少々ばかり調へて與れまいか喃」

お力は詞も無くさし俯向く、この上を春風はそよ〳〵撫でゝ、一筋亂るゝ鬢の毛に、心の縺れは、見ゑたりき

「貸らぬか喃、先刻にも二合無理云ふて、また飽くさまも無く無心云ふをさぞ心に下すまう喃」

「勿体ない、左樣なこと……」慌てるやうに聲を絞りて「……左樣な事ある筈はござりませぬ、されど御存じの一」

「何も云ふてたもる喃、飽くこと知らぬ私が不調法、酒が欲くば舌を嚙んで歸らめる」と、口には云へど心の底は物寂しげに「見るは目の毒、この膳部退いてたもれさ」

くるりと此方へ脊を向けて、花に對ふ憐れさを見たる時、お力の頰には熱き露玉ぞ閃きぬ。

廣告

京城居留民團告示第十六號

當民團區域內ニ居住スル者ニシテ明治三十七年四月ヨリ明治三十八年四月一日ニ至ル間ニ出生シタル兒童ハ來ル四月一日就學ノ始期ニ達スヘキニ付該兒童ノ保護者ハ來ル三月二十日迄ニ入學願ニ戶籍謄本ヲ添ヘ當民團役所ニ提出スヘシ

明治四十四年二月七日
京城居留民團民長 古城菅堂

瓦斯コークス販賣
京城黃金町高等演藝館隣
酒井組
電話一一四九番

從來拙者の使用せし印章破缺せしに依り明治四十四年二月十三日以後楕圓形の印章を改造爾後同印章を使用するに依り此段廣告す
明治四十四年二月十三日
千競植 告白

院長上京中ノ處歸院ス
二月一日
京城南山町三丁目
電話一一四〇番
飯塚齒科醫院
院長 東京醫科大學齒科專攻 飯塚徹
醫員 齒科醫學得業士 安永鹿三郎

ペスト豫防は鼠を捕るに限る
捕鼠器大安賣
多數御入用の御方は特に安價に御相談致可候
京城本町一丁目(長谷川町筋)
和洋金物 大工道具 打物一切
商 前田金物店
電話(一八六七番)

M.C.C.
土耳古紙卷賣
エムシーシー
專賣局の定價は百本に付金五圓貳拾錢なるも朝鮮內は大安賣
京城、平壤龜屋……釜山、木浦、群山高瀨支店

印章彫刻
ゴム印彫刻
京城本町四丁目
赤帽子號印舖
電話九三[illegible]
諸官衙御用達
奧野[illegible]太郎

大阪東區今橋二
大阪株式取引所仲買人
西村義之商店
電話長東 七六八・三一八五・九八〇・四七三五・三六六九

秘密嚴守
公債 株券 現物 定期 賣買
誠實機敏
京城明治町二丁目
西村京城支店
電話一七二六番
取扱店 仁川外海岸
笠目仲買店
電話一六三番

土地建物鑛山株券賣買
小林藤商店
貸家管理の囑托を受く
一百町餘の果樹園適地買入たし
田畓山、金銀、黑鉛鑛買たし
商品其他確保に貸金す
市外田畓山林未墾地鑛山賣物あり
市內家宅賣物數多あり
京城明治町三丁目
電話六五五番

蒸溜 消毒 牛乳
京城壽町五十番戶の一
廣養舍 細川牧場
(電話一三六六番)

入院隨意
內外科 小兒病 梅毒淋病
高井醫院
京城壽町三丁目
電話(二一六)
院長 陸軍軍醫正 高井貞治

●御名代隨員決定

伏見宮殿下隨員として渡英すべき人員は東郷乃木兩大將及び戶田伯以下十名に決定發表されたり

●恩賜金分協議會

過日陛下より下附されたる恩賜金に關し各道長官は更に近々協議會を開き之れが…

●總督府豫算可決

朝鮮總督府特別會計豫算案は十四日の衆議院本會議に附議し少しく議論ありしも結局委員長の報告通り可決確定したり

●救貧事業建議案

國民黨は國庫より一千萬圓を支出し救貧事業を起すべき建議案を提出するに決定したり

▲國際防疫會議

ペスト國際防疫會議の建議に關する委員會は朝鮮に關係ありとて次會には總督府政府委員の出席を求めたり

▲衆議院豫算會議

昨日の衆議院豫算本會議に於て武富島田、早速の各代議士は反對意見を述べ大岡、井上等の代議士は委員長の報告に賛成し桂首相の辨明ありたるが其質問發言等に關して大紛擾ありしも政友會の査定せる如く豫算全部確定し夜八時頃散會せり

▲入超六百萬圓

二月上旬貿易は輸出千二百二十九萬圓輸入千八百七十七萬圓にして輸入超過額は六百四十八萬圓を示せり

雜報

●總豫算通過

兒玉秘書官より十五日午前總督府に着したる電報左の如し

十四日衆議院に於て四十四年度總豫算及特別會計豫算を討議し守屋代議士より東拓會社の現況及朝鮮會計に關し攻擊的質問あり續いて日向代議士より朝鮮事業公債は五千六百萬圓に止まらず更に增加する必要なきや恩賜公債を增發する事なきやの質問あり桂總理は事業公債は經營上の必要に應じ他年更に募集の必要あるやも知れざるも目下の所にては必要を充すに足る考なり恩賜公債は今後決して增發する事なきを斷言すと答へ其他の質問に對しても一同答辯したり續いて武富代議士より豫算案全部を政府に返附し更に組み直さしむべしとの動議を提出し討論の末否決せられ早速、石坂、高木、武田、佐々木等の各代議士より修正意見を提出したるも總て否決せられ結局委員報告通り確定す即ち總督府特別會計豫算は全部原案通り通過せり

●爵記到着期

朝鮮貴族に下賜さるべき爵記は既に御親署濟となり東京を發送したる由なるを以て一兩日中には總督府に到着すべし

●爵記交附式

別報の如く朝鮮貴族に下賜さるべき爵記は一兩日中に到着の筈に付き直ちに總督府に於て山縣政務總監より各貴族に交附すべしと云ふ

●郵便規則に就き

▽內地と相違の點

朝鮮郵便規則は去る九日總督府令第九號を以て公布されたるが內地の規則と如何なる相違あるかは人々の聞かんとする所ならんが今當局者に付き聽取したる要點を茲に掲出して其參考に供する事となせり

(一)郵便規則は元來共通的のものなるが一般人民に利便を與ふるに足らざるを以て朝鮮に於ける同規則は內地にて存せざる限りは內地の規則を取りて編成したれば從つて甚しき相違の點あらざれども又二三特定の廉なきにあらず尤も本規則は內地のソレに比すれば辭句を修正變更したる點多からざると同時に條項を整理せり內地の規則は過年公布したるものに漸次追加せる條項多ければ往々假令ば第何條の一二などゝしたるもの尠からざれど本規則は新たに編成せる丈けに斯る煩累なし

(二)通常郵便物に就ては內地と大差なけれど小包郵便物には特異の點あり則ち內地には普通と書留の二種あれど本規則には書留のみにて普通の規定なし是れ朝鮮の事情に基きたるものなり

(三)現金取立に關して本規則は郵便區市內外を規定せり是れ朝鮮は郵便局の少數なるが爲めなり

(四)內地に於ては郵便區市內外の規定あらざれど本規則には明白に是れを規定せり

(五)名當變更は差立準備前の申出にかゝる時は別に料金を徵收せざるが內地に於ても然り其他別配達徵收規定不足料金等も略ほ相同じ

(六)內地に於て遞信大臣とあるは本規則に於て總督となり居るは言ふまでもなき事なるが內地の規定にあらぬ郵便所と云ふ設備あり則ち內地にては一等、二等、三等郵便局となり居れど本規則には郵便局、郵便所、郵遞所と規定せり

(七)鐵道船舶郵便、市內特別取扱包裝規則、切手類記號規則、私製葉書製式等も內地と同一にして何れも三月一日より施行の筈なり

(八)他事ながら市內特別取扱郵便物及び廣告郵便は從來も取扱ひ來りしが未だ是れを利用したるもの無く只從に過日民團議員選擧の際此廣告郵便を利用せしもの二三を見受けたるに過ず

●沿岸航路と補助金

朝鮮沿岸に於ける航路の補助金は韓國政府の當時よりして木浦の福田有造、釜山汽船會社、元山吉田秀次郎の二氏に契約し之れが補助金總高は約七萬一千餘圓なるが該契約は本年八、十一、十二月を以て契約滿期となりて解約せらるゝに付當局者は其後の補助金問題に就き目下調査中の由にて從來は右等三者の航路が錯綜して統一を缺くものありしを以て今後は之れが整理と統一を圖ると同時に航路の補助は陸上に於ける鐵道布設と同じく最も重要問題なれば勿論補助金を與ふることになるべしと

●防疫委員會

十四日午後一時より總督府に於て防疫評議委員會を開き山縣政務總監を始め明石警務總長宇佐美內務部長官藤田醫院長鈴木關稅局長小城鐵道局技師岡本遞信局技師等の各評議委員列席席上藤田醫院長の北韓視察狀況報告あり次に今後各港檢疫其他豫防上に付協議を遂げ散會

●清勞働者取締

防疫本部はペスト豫防の爲め當分の中支那人勞働者取締に就ては一層嚴密に施行すべき必要を認め十四日左の如き部令を發したり

ペスト豫防の爲め當分の內淸國人たる行商人及居留地に居住せる淸國人勞働者並に明治四十三年統監府令第五十二號により居住の許可を得たる淸國人は所轄警察署又は其の職務を行ふ官署の在住證明書を携帶すべし前項の證明書は當該官吏の要求あるときは之れを提供すべし

因に本令は十三日より之れを施行したるものにして該令に違反したるものは拘留科料に處せらるべしと

●仁川沿岸警備船

防疫に付き沿岸の警戒を嚴重にする爲め木浦より警備船一隻仁川へ入港せり

●忠南警備船の指揮 甞に忠淸南道に廻航したる海上警備船の指揮は牙山警察署長此の任に當るべしと云ふ

●松永師團長東上

第二師團長松永中將は師團長會議列席の爲め高級副官岩井少佐を隨へ兩三日中に出發東上すべしと

●度支部技師の交迭 度支部技師荒井宣治氏は專賣局技師に轉補し專賣局技師岡田虎輔氏は其後任にして來任する筈なるが荒井技師は近々出發赴任すべし

●金利は兎角弱腰

京城各銀行は春來一般金融緩慢の傾向あるが就中朝鮮人側各銀行は舊正月に際せる爲め一層沈滯の有様に在り而して節季は米豆等の主要農產物高價なりし爲に非常の活氣を添へ此現象は引續き本年に及ぼすべき見込みなるも目下の處にては放資上著しき事業なきを以て現金利は兎角弱腰の形勢なりと

籾米入札の辯疏

……東拓會社を訪ふ……

東拓會社榮山浦出張所に於ける籾米入札の滑稽劇は前號の本紙に之を報道せしが其豫定價格と最高入札者との間に於ては實に千里の懸隔ありて到底常識を以ては測り知るべからざる程なり而して孰れも其體を逃る人々のみになる拘はらず何が故に斯かる隔差を生せるかは何人も訝かる處なるが今同本社安藤地所課長の辯明を聞くに

▲入札者の談合

に依りて然る結果を現出せるものならば談合の事實を突き止めしや如何と推問せしに否な突き止め得ざるも入札者が共謀して或る價格を標準とし私利を營まんとするは往々例のある事なり現に彼等多數の人々が殆んど同一程度の價格を入札し居るに徵しても其疑なきを得ずとて罪を入札者に負はせ居れり而して些々たる這般の行違を業々しく新聞紙に掲載せしめしは

▲新聞記者を利用

して入札不成立の恨を晴らさんとせる彼等の奸計に外ならず而して之に載せられたる新聞記者こそ不明の極みなりと斯く入札者を奸徒視し新聞記者を不明呼ばりして自己等豫定價格算定の誤れるを悟らざるに到りては言語同斷沙汰の限りなるが更に今後の處分如何を問ふに

▲隨時特賣の方針

なりと則ち從來競爭入札に付せしは榮山浦の嘴矢とせるが其成績甚だ面白からざるを以て今後は希望者に應じ隨意契約を以て放賣すべく內定せりと而して昨年中小作揚米は約十萬石なるが既に賣却せしは凡そ一割にして他は全部各出張所に保管し在り然るに本年の米價は前途倍々騰貴傾向あるを以て時機を見て賣却すべし故に之を昨年に比すれば時價の關係により同社の收益上大に良好なる成績を收め得べしと語れり

●改稱の商業銀行

天一銀行は今回其稱號を朝鮮商業銀行と改めたるが其理由は單に從來の名稱甚だ異樣に感ぜらるゝを以て內地的に改稱せるに過ぎざれば其營業方針の如きも之が爲めに格別の變化を爲さゞる筈なりと而して同行の營業取引は內地商人過半數を占め其他は朝鮮人及支那人の濟商なるが經濟界の一機關として任成るものなりと云ふ

●朝鮮教育會

同會は十四日午後七時より南山町高等女學校校堂にて其第一評議會を開く會する者關屋會長を始め評議員渡邊暢、小田省吾、山縣五十雄、隈本繁太郎、亥角仲藏、峰岸繁太郎外十數名の諸氏にして始めに關屋會長より開會の辭あり次に小杉幹事長より會務の報告ありて議案を配布し正式の議事に入れり

議案

第一 本會の沿革及事業の概略報告の件

第二 常設倶樂部及新聞雜誌閲覽所設置の件

第三 夏季講習會開設の件

第四 本會事業に關する件

議案第一は關屋會長の說明により無異議承認せられ第二乃ち常設倶樂部及新聞雜誌閲覽所の設置の件は當分必要なしとの多數意見に因り否決せられ第三夏季講習會の件は全會の贊成を得て可決せられたり第四に就ては峯岸評議員の提議に係る

併合前に於ける教育功勞者を表彰する

ことを可決したり續て亥角評議員の提議により今後は本會と各地方の教育會との關係を密接にすることに勉むべきことを可決したり同閉會後懇會者互に教育上の意見を交換し散會したるは午後十一時なりし

●聯合會と日程

來る四月當地に日鮮商業會議所聯合大會開催の議は屢々報導したる處なるが其後京城會議所にては各會議所と打合せの結果內地會議所の代表者は來る四月二十一日頃下の關に集合する事に決定したり尤も其の集合期日は場合により變更を來すやも知れざるも同地集合後の確定したる旅程を聞くに左の如し

第一日下の關集合同夜乘船渡航▲第二日釜山着同夜發車▲第三日太田を經て京城着▲第四、五、六の三日間京城滯在大聯合會開會▲第七日水原往復▲第八日仁川行▲第九日仁川發京城着▲第十日京城發平壤行▲第十一日平壤發鎭南浦行▲十二日鎭南浦發平壤を經て京城に歸る▲十三日京城滯在▲第十四日京城發大邱を經て馬山行▲第十五日馬山縣洞巡覽▲第十六日馬山發汽船にて釜山行▲第十七日釜山發關航▲十八日下の關歸着 一行は東京會議所を始め內地會議所四十餘ヶ所の代表者百五十餘名より成るものなりと云ふ

●中央大學々員會 十八日(土曜日)午後六時より花月樓に於て中央大學々員會を開き幹事の改選を行ふ筈なるが會長には倉富司法部長官を推薦すべく過日幹事より同氏へ交涉し、其處快諾せられたる故學員は振つて來會せらる可く京城通信へ豫報せられたり

●明治大學校友會 十七日午後五時より京城ホテルに於て秋山法學博士歡迎會を兼ね校友例會を開催する由

●商業銀行披露宴 舊天一銀行は今回朝鮮商業銀行と改稱せしに就き其披露の爲め來る十八日關係高等官二十餘名を十九日には各銀行會社商業會議所代表者四十餘名を二十日には本町六七丁目有志者を花月に招待する由なり

●司法部の優擧會 司法部優擧會は來る十八日午後一時より同部樓上に於て開會の筈にて目下準備中なるが當日參集すべきは同部各課長は勿論同部員裁判監獄の各判任官同待遇者八十餘名にして當日は中村控訴院檢事長の法制上に關する講演ある筈にて定めし盛會なるべし

●鎭南浦の面長會議 鎭南浦府廳にて去る十三日より面長會議を開き徵稅其の他の事務打合せをなすと云ふ

●鑛業權許可 鑛業許可▲平安南道安州郡西面滿川面 石炭、九八三、六四八坪平壤市壽町松井きよ▲平安北道渭川郡檀面、黑鉛、四〇、〇〇〇坪平安道宜川谷口與四郎●採取許可▲咸鏡南道甲山郡雲興面、砂金、二六二、七八七坪コールブラン、ボストウキツク、デベロープメント、コンパニー▲平安南道順川郡慈賢面、砂金、三八町九間京城北部大安洞四十一統一戶金壽鉉▲平安南道成川郡柳洞面、砂金、九七、七五四坪京城西部積善坊司醞洞二六一趙鏞弼▲平安北道寧邊郡延山面、砂金、六九、六八七坪京城市古市町五一森本辨藏

●監獄敷地變更

現京城監獄は其構造甚だ不完全なる爲め早晩新築を爲すべく決し京畿道管內阿峴坡に地を相し既に基礎工事を開始し數萬圓の巨額を耗費せしが該方面は將來市街の中心地たるべき狀勢を有するを以て市民側より反對の聲盛んに遂に己むなく中止する事となれり而して其後他に適當の敷地探定中なりしが無償の官有地にては之を得難く依て其幾分を民間より買上げ西氷庫の民團火葬場附近に決定せりと云ふ

●大局の整理

現京城發論者は唯だ本町通の狹隘にのみ焦慮し毫も大局の整理に思ひ到らざるが如し則ち眼を本町通の一小部分にのみ注ぎ其擴張を以て究極の目的を遂ぜりと稱するに似たり是れ思はざるの甚しきものにして姑息彌縫の議を免れざるなり今其擴張概算なるものを聞くに本町通のみにても優に五十萬圓を要し更に其補助道路の爲めに五十萬圓を要すと言ふに非ずや斯かる大資源を何れに向つて求むべきかといへば漫然國債を起すべしと唱へ其利子仕拂及償却の方法に到りては何等の考案をも有せざるなり予は斷乎として慨かる安漫なる計劃に與みする能はず然れども其急務たるを認むるは決して人後に落ちざるを以て此際宜しく

整理委員を設けて完全なる市區

調査を遂げ官營の下に其遂行を期せん事を希望す而して予等市民は宜しく一致團結して政府當局者を動かさゞるべからずと云々

●訂正● 昨紙社說二段十三行目「儀焉」たらざるものは儀焉たるものありの誤

公人私人

△鮎川克巳(三南新報社長)太田に向ふ

△高橋孝治(北海道廳技師)釜山に向ふ

△辻川岩十郎(滿韓日報記者)仁川に向ふ

△荒川德一(日韓瓦斯會社員)浦尾旅館投宿

△丸山虎之介(公州府大坂每日通信員)辻家旅館投宿

△桑原八司(總督秘書官)巴城館に投宿中なりし同氏は十四日大和町官舍に入れり

▲仁川港の出入船舶▼

▲木浦丸 十六日大阪より入港

▲勝利丸 同 大阪へ向出港

▲漢城丸 同 橫濱へ向出港

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客 十四日の分 乘車客 三五四 下車客 六〇一 乘車賃金 九三四、四四

▲南大門驛荷扱高 十四日の分 發送 三七 到着 二二六噸 貨物賃金 八一七、二七

▲龍山驛乘降客 十四日の分 乘車客 一二二 下車客 一九二 乘車賃金 一三〇、九〇

▲龍山驛荷扱高 十四日の分 發送 三噸 到着 四八三噸 貨物賃金 一四〇、七八

●街路擴張問題

（中島司馬之助氏談）

吾民團管內に於ける街路擴張の急務なるは何人も認むる處なるが其施行方法に就ては各人其見を異にす予の見る處によれば斯かる大事業は元來總督府に於て之を經營すべき性質のものにて僅か五萬內外の在留內地人の負擔に歸せしむべけんや思ふに街路擴張は漸々た…

●棉花會社と將來

寺內總督は韓國富源開發の一端として大に棉花栽培を奬勵せんとするが如く寺內總督は曩に日比谷平左衛門和田豐治氏等の懇談に對し、朝鮮棉花業振興に就て贊同を表し假令直接に保護を與ふる能はざるにもせよ朝鮮總督府に年々國庫より五百万圓內外の補助金を仰ぎ之によりて大に

運輸交通

の便を啓き產業開發の基を建んとするの意を明かにし是れ朝鮮棉花栽培事業に與ふる至大の

間接保護と桂侯

なりと說破せしと傳へられしに日比谷平左衛門氏が朝鮮棉花會社(資本金五百萬圓)の創立委員長たらんことを肯んせず創立事務聯か行悩みを見るに及び去月廿四日日比谷氏は招かいて三田の私邸に桂侯と會見したる際首相は單に一個の市民として懇談を試みたしと前提し日比谷氏に創立委員長として新棉花會社の建設を懇望せられたしなど懇願甚だ力めたる末本邦に於ける棉業發達の必要を說き

五千萬圓輸入一億

にして原棉輸入年額實に一億に達し帝國版圖内に於ける棉花栽培の一日も忽諸に附す可からざるを切言せし爲め桂侯の忠言に從ひ會社創設に盡力し遂に本月一日に至り重なる關東各紡績業關係者の贊同を得たるより既記の如く中佐久間福太郎氏は棉花栽培協會員浦上氏と相携へて阪神遊說の途に上りしなり斯くて關西各紡績重役大株主等の贊成を得て本月中發起人會を開き三月創立總會を招集する豫定にして大阪の韓國棉花會社(公稱資本二十萬圓)と合同し同社が木浦附近に於て既に着手せる棉花事業を繼承すると同時に北朝鮮に向つても棉園を開設するの計畫にして四分の一拂込百二十五万圓を資本として漸次

朝鮮各道に亙り約十萬町

の棉園を起し約一億五千五百斤の米國棉花を獲るの豫定なれば米國棉花の平均價格卅六圓と見て右韓國棉花を三十圓に販賣するも尙は一

割五分の利益

を擧ぐるに足れりとは發起人の理想とする所なるが棉花の如く豐凶常なく市價の浮沈殊に激しき農產物に對し收益を

豫斷

するは何人も難しとする所なるべく唯朝鮮棉花は品質に於て二十手以下の原棉たるに適し將來棉花栽培業發達の曉日比谷氏等の發起人は棉花會社の附帶事業として朝鮮に紡績業を起さん企畫を抱け るは事實なり然るに大阪には新に中橋德五郎氏を創立委員長として二百萬圓の朝鮮棉花會社を起し目下東京大阪兩市に於て株式募集中なる別派あり双方交々對抗の姿なるが兩社共に成立の上は朝鮮總督は

會社令

の範圍に於て多分一會社を限り認可すべき模樣なりと傳へらる

●正誤● 拜啓二月十五日發行貴新聞第六百廿六號二面三段「固定期總會の件」御記載有之候處右は何かの誤傳と被存候乍次の定時總會は第五回にして其開催日は未だ決定仕不居多分三月上旬と存候右御序を以て御訂正被成下度此段御依賴申上候 日韓瓦斯電氣株式會社印 京城新報社御中

相場電報

（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（三月限）（前場）（後場）

	前場	後場
京坂同	六五、二〇	六五、四〇
電鐵同	六五、曾〇	六五、四〇
大阪同	六九、〇〇	六九、一〇
紡績同	六九、〇〇	六九、〇〇
電燈同	一〇七、五〇	出來不申

▲大阪米期

大阪同	一三〇、六〇	一三一、〇〇
株式同	一三〇、七〇	一三一、一〇
取引同	一二九、三〇	一二九、五〇

正米二月寄八錢▲止同上▲三月寄二十一錢▲止同上▲四月寄二十三錢▲止二十一錢

●十五日前場二月寄十五圓八十錢▲三月寄二十錢▲四月寄三十二錢 圓八十一錢▲最高八十三錢▲最低八十一錢▲止八十三錢▲四月寄五十八錢▲最高六十錢▲最低五十七錢▲止五十八錢

●十五日後場當月出來不申▲三月寄十圓八十一錢▲最高低止同上▲四月寄五…

▲京城手形交換高▼

二月 金高 枚數

제627호 1911. 2. 16.

▲大阪株式（三月限）（前場）三八、七〇　三八、八〇（後場）三八、九〇　出來不申 [illegible]

活動寫眞　設面子

十五日 朝の南大門驛

朝風冷かにして晴れなんとする空は白い、木覓山に殘る昨曾の雪は枯幹老松花も咲くべう、寺院の尖塔、淡く光るも詩趣溢れて快い。停車場畔、降りに雪は掃きもやらず道もせに散り布く、白熊、檢に車輛の蹂躙に任すも惜いようだ、待合室に入れば朝鮮總督府木内重四郎京城同人出の眞四角の紙裝の箱が目に立つ、忠清南道洪州城内小橋米吉と書した警金包の傍らには人が見へぬ。手荷物扱所ばと覗けば、朝鮮總督府警部松村伊太郎、山形市内海英吉、山口縣大島郡南西鏑子、大阪市南區有光卯太郎、東京市小石川區關口水道町中島きよ子、等の行李類が見へる。タイムは迫る、多少の旅客は混亂の狀を呈して柵外に流れ出た、周到なるポリスは驛員以上の心盡しを爲しつゝある光景を目擊す、僕は常に警官の人と爲りに敬服する。之れと共に旅客案内係の更に今一段の活動を望みたいのだ、常に驛員諸士や警官の親切と篤實なる行動とを見て、事實愉快を感じ感謝の念に打たるゝものは決して僕のみでは無い。午前九時、釜山行列車は消へやらぬ雪を載せて靜かに去り、同九時十分、新義州行列車も徐ろに離れて長蛇の如き影は見へずなつた。日は漸く照り渡りて泥濘の道は、凸凹の家並に一點二點の飛沫を彩りて、車は遠くポールの音を立てゝ過ぎる。北漢嶺の風は寒い。

四十餘年睡夢中　而今醒眼始朦朧
不知日已過亭午　起向高樓撞曉鐘

一諷徹吟、西小門に向つて。

●併合の餘德　龍山東幕[illegible]

居住せる米商金炳照は去る一月廿九日[illegible]倉庫内に貯藏せる雜穀價格五百圓餘[illegible]たる處同署に於て[illegible]龍山警察署に於て[illegible]犯人を發[illegible]賍金三百五十圓餘を同人に返還したるに同人は官憲の機敏と清廉とに感謝の意を表し目下ペスト豫防に上下熱中せる折柄とて貧民に給與すべく捕鼠器購入費として金二十圓を同樂に寄附し分與方を願出でたり

●鮮人富豪の篤志　龍山

[illegible]二戸高允默（五二）は既に[illegible]篤志家として[illegible]るを例とし來り遂[illegible]るもの無く鮮人中稀れに見る善行家と[illegible]年末に際せしかば[illegible]も亦前例に依り陰[illegible]現金貳百圓大豆三叺白米九叺薪千束價格三百〇七圓二十錢を支出し窮民百五十名を賑はしたりと云ふ

●小學生徒の同情　海州

普州學校にては去る一月三十一日[illegible]內學監が全校の生徒九十六名を講堂に集めて香川縣粟島航商學校の練習艦七寶丸沈沒の慘狀を講話したるに生徒は皆非常の同情を表し學童九十六名は擧つて幾分を醵金し航海學校へ贈ることゝなしたり

●姜逮捕懸賞金

賊徒の首魁姜基東逮捕の事は昨紙既報の通なるが彼の逮捕に對する憲兵司令部よりの懸賞金五百圓は逮捕せる元山警察署の警官に下附する筈なりと

●各署の鼠買上數

各署十四日買上數西大門分署三四九東大門分署一八七南部署二八一北部署一八一鋼峴分署一七三水門洞分署一五一龍山警察署一〇〇同憲兵分隊一七なり

●仁川鼠買上高

[illegible]十四日は百四十三頭にして金四圓二十九錢なりと

●小便公判

既報旭町一丁目土木請負業者吉澤德太郎（三五）の警察犯處罰令違犯即決に對する正式裁判事件第二回公判は京城區裁判所刑事部法廷に於て宮脇判事秋場檢事の係りにて開廷せられ證人として吉原乙吉出廷宣誓を終り判事は詳細に檢事事務支部に於ける當時の狀況を訊問し證言は逐一被告の利益の證言にして被告吉澤が亂暴放尿の事實に知らぬと確答したり訊問終り秋場檢事は嚴然たる體にて論告して曰く本件被告事件は一件記錄の上に於て何等證據も無く根本的の證言に因り證據薄弱なる事明白にして警察署が證據不充分なるに即決をなせるは不當にして[illegible]に過ぎざるもの[illegible]ば即決を取消し無罪の宣告あらん事を求む云々と論告す[illegible]十八日言渡す可しと閉廷したり

●刑事のキンを蹴る

去る明治四十二年十一月仁川峠の倉庫を押破り金市四十疋を窃取したる曲者ありし事は嘗て報道せしが仁川警察署にては之れが犯人の探索に苦心せしが去る二月十日同署の小池、朴、成の三刑事は探偵の結果右犯は全羅南道興陽郡芋瑪西面大村統戶不詳當時仁川多小面新村一統二戶田聖甫方同居金正吾（二八）及び平安道中和郡內上洞巨里當地仁川多小面新村二統五戶韓敏知方同居金朱鎮（三四）なりと目星を附け萬石洞に潛み居るを突止め逮捕せんとせしかば曲者は抵抗をなし朴刑事の睾丸を蹴飛し爰に大爭闘を演じ遂に彼れの力盡き逮捕せられしに至りと田聖道は前科强盜犯の曲者なり

●曲者　山口縣下關市今浦町三十三番地當時住所不定坂田市助（三一）は窃盜詐欺恐喝賭博犯罪の前科數十犯の曲者にて昨年十二月二十一日永登浦監獄出獄以來一定の住所職業なく諸所を徘徊し博徒無賴漢の群に入り其筋の注意人物なりしが本月四日午前八時頃北米倉町住居纈とよ方の不在に乘じ忍び入り御召羽織一枚外數ヶ所にて衣類其の他金品窃取したる事長野岸刑事に探知され目下南部署にて取調中

●ヒヨロツキ　愛媛縣人當時櫻井町居住指物業土井長次郎（三五）は十三日午後七時頃南山町二丁目飲食店春本文吉方臺所に至り女將に酒を出せと强請し且つ懷に手を入れ刃物を搜す風を爲し威迫したる爲め南部署に引致され取調の上拘留十日の即決

●泥棒　南部大里門洞百七十統六戶金春根（三二）は本月十一日午前八時頃中部萬石契十七統十五戶古物商申平心方に忍び入り銀側時計外三十餘點（代八十圓）を窃取したる事南部署刑事の探知する處となり逮捕され取調中

●盜難　龍山山下町一の一古着商稻葉六郎方に於て二月五日より十四日迄の間行商不在中衣服帶類六點價格四十餘圓の品何者にか窃取せられ態て憲兵分隊に盜難屆を差出したり

仁川商店めぐり

京町　力武精米所

所主は力武平八氏佐賀の人同所は明治三十八年創立朝鮮に於ける斯界の嚆矢家として其名滿鮮に識く殊に滿洲方面へは販路擴張を謀り大連に支店を設け兩者共に日進月歩の趨勢なり同工場には電氣蒸氣の兩動力にて百六十馬力を用ひ米國エンゲルバーク式精米機十臺研磨機五臺籾摺機六十臺スプリング式精米機回轉石拔機並に諸般の附屬機械を設備し一ヶ月の精搗高二万石朝鮮中第一の大精米所として工場の整備機械の完全なる他に比類なかるべし精米の直段は目下撰最上[illegible]一石に付時價金十四圓九十錢一等米同十四圓一十錢等にて以[illegible]

▲大阪米期　取引同　▲十四日前場當月止出來不申▲三月止三十三錢▲後[illegible]

▲仁川米豆取引　●十五日前場二月寄十五圓八錢▲三月寄二十錢▲四月寄三十二錢　●十四日後場當月出來不申▲三月寄十五圓二十一錢▲四月止三十三錢

●演藝だより

下敷種あり販路は京仁を主とし滿洲方面へ輸出最も大なりと

●歌舞伎座　每夜大入續きなる男女合同劇は十七日より狂言は前『細崎文庫黑田礎全六幕』切『義經千本櫻道行』にて重なる配役は黑田右衞門之助、忠信（寶川正三郎）下郞惣平、靜御前（阪東鶴二郎）淺井四郎右衞門（中村尾之吉）女房（はつ）同淺吉）倉橋重太夫（市川雀十郞）番僧早見藤太（中村花笑）山脇新吾（市川家雀）委女之助（同福司）吉田源吾（同鯉昇）家主金兵衛（阪東和調）

●京城座　引續き大入好評の兄弟義團十六日の藝題は二人靜婦にて堀江の腕輪だ角松澤の萬引れ雛とは常夜の花

●浪花館　相變らず好人氣なる入坂女義太夫越之助一座十六日の語り物は御祝儀寶入船（入登）れ駒才三鈴ヶ森（濱助）梅野由兵衛（越濱）逢山九ッ目（若大）忠臣藏六段目（土佐濱）三勝半七酒屋の段（源八）玉藻前三段目（高助）忠臣藏三段目（當十歳越子）盛衰記三段目（越之助）れ牛長右衛門帶屋の段（掛合）三味線鶴澤大三竹本三越

京城の眞夜中　みや生

新町からの歸りでもあらう、一人のイルボン車夫が早志組とした提灯を梶棒の先きへぶら下げて鼻歌唄うてやつて來た、聊かきこし召したと見わて景氣の宜い聲を出す『オイ長谷川町までやつてくれ』と云ねば『ヘエ』と答ねて梶棒を北へ向けた、予は車の上から『何所か別嬪の居る所で宿屋はないかね』と尋ねると、車夫は威丈高になつて『エヽあります』とハタと車を止めて、『ソウ云ふ宿屋なら長谷川町でなくつてありまさア』と江戸子辨で吐しくさる、此車夫奴人を田舍者と思つて胡麗化す、憎い奴だと思つたが此樣な奴に限つて、珍な所へ引張つて行かも知れないよしッ何處でも持つて行け、と覺悟を定めて、『正直な宿屋なら何處でもいゝ』と言ふと人をあくまでオボッチヤンと侮つて梶棒を高くしてノコノコと走り出した何處へ連れて行く積りかしら、と默つて見て居ると京城日報の前を通つて本町通りに出で右へ直ぐに左へ二丁程過ぎて細い小路を右へ曲り更に幾曲りしての澁笑家屋、其の一軒目であつた、仰げば『池澤』と書いた街燈の光が寒氣に凍つたかと思はれて斗りに薄暗く四方を照して居る、車夫は予を外へ置いた儘、內へ入つて四五分話しをして再び出て來て、格子の方から御入りなさい、と言ふ、言はれた通りに格子戸の方から呑氣な顏してヌウッと入ると座敷には入字髭の大の男が心地よげに睡つて居る、亭主はチョイト、待てと言つたまゝ外へ飛び出したが其れぎ姑んと入り替りに何か來歷のありそうな年增の女房が現はれ出で茶を一服召せと許りが膝まづく刹那に『今晩は』と女の聲がして格子戸が開いた銀杏返へしの頂天が見わて再び格子戸が閉つた、其素早やさ加減は實に疾風迅雷耳を掩ふに遑あらざらしむる位である、予の見たのは只だの刹那であるが多分風呂歸りか何かであらう年の頃も確とは分らぬが恐らく廿六七であらウ、丸顏の樣であつたが、かつらを戴いて居たつて鼻の頭をぴん付油で胡麗化して居たつて此樣な短時間の觀察では到底其精細を究むることは不可能である、凡そ亭主が飛び出してから、銀杏返が格子戸を閉て去る迄僅に一分か二分の間であるが其間に此丈けの藝當が演ぜられたのである銀杏返の急々と歩む下駄の音が寒夜に冴わて次第に遠くなるのを片耳に挿みながら女房は予の顏を見上げて、『今の女は御氣に入りましたか』と問ふ、成程『今夜は』の時間の短いのも道理にこそと予は思はず笑壺に入ると、宿の女房は履違へて『ハーア且那御氣に入りましたな』と思つたらしい膝を乘り出した（續）

▲平民文壇▼

▲十四日朝貫新報の易欄を見ると九紫平和葛藤酒色の害を戒む諸事手控の事旅行新事婚談貸借金談見込無しと亦同朝京城日報易欄には九紫大利の日轉居入學等皆進んで吉女子の望事叶ふ大吉日也と有る僕は旅行殊に金儲けに出る者大に決斷に迷ふ友曰く物は大事を取る可し宜敷新報に從へと僕は考ふ運勢惡しく掲載された時之を止むるならば毎日布團の中かア、何れが……（迷々生）▲近來の暖氣にて結氷は殆んど解けしが漢城衛生會にては今少し運搬力を增し塵芥の取捨てを迅速に願ふ殊に北部署內太平町裏通と舊龍山の裏通の臭は胸糞惡い程だ（衛生家）▲淸月樓の鹿子さん人目も憚らず余りな事をすると牧野さんの秘密を素破抜きますよ（△△生）▲鍾路近傍の嚴しき役所の○○に御出勤の○○さん鍾路新町に討り御出勤になるも爲めになりませんよ早くれ止めにならぬどれ名前が出れ勤め先きのお職にも……（注告生）▲大和町一丁目平山牧場の[illegible]大會は實に盛會で有つイ場主平山君が自稱以て牛乳の大王と誇る丈け君に自信あり主義ある事を疑は無い商家の武士道君を以て模範とす一層奮勵努力し給へ（一好僧生）▲事は每夜に屬す、古市町電鐵停留所の近傍に大阪浪速商會出張所なる處あり大小二匹の番犬を飼へり然して夜十時過ぎ同所前を通行する者は必ず右二犬の獰惡な、襲擊を受くべし或晩の如きは小犬の爲め余は非常なる迫害を被らんとせしかば全力を注いで防戰是務めつゝありしに同家內より三十前後（番頭？）と思わしき者現はれ『グズグズしとると大きな犬が出るぞ』と左も得意顏に言へり余は驚き逃げ去りたり當局者今少しく取締を嚴にして可也（天洋生）▲固より其筋の取締大に必要なり而して番頭らしき彼奴の言は何事ぞ大に詰責すべきなり所謂冷血動物とは彼等が事にして犬にも劣る其の言動言語同斷なりと云ふも尙且つ餘りあり（小僧）▲私事長らく血淋で困りて居りますが宜しき藥は有ませんか御面倒ながら貴方新聞にて御聞き合せ下さいた賴みです（萩原）

◦今日の運勢◦

●二月十六日舊正月十八日九紫赤口丁巳平△一白　障りありて成效し難き日諸事愼の事旅行金談婚談合同談讓起業開店凶△二黑　旅行祝典宴會に忌む他は快欣の日進んで吉△三碧　改革轉業整理轉住に凶お他進んで吉△四綠　委任委囑共效無し賣買取引起業旅行婚談進んで利あり△五黃　結社組合に忌む他は平和の日大凡進んで吉△六白　新事旅行婚談に凶賣買取引貸借尤も故障起り易し總じて不如意の事へ△七赤　新事旅行賣買貸借談合共同團結の事凶盜害横領防ぐべし△八白　營運日殊に金屬の業務及婚談子孫の事を擧ぐるに尤も惡し△九紫　和離間を戒しむ概して不振無効の日事扣へ目の事旅行轉住婚談凶（三一館）

至急◎

三周兩君告住居不明困却す豫定の期日集合乞ふ　ケイエス

廣告

第八號公告

一金七圓五十錢

右ハ龍山鐵道官舍村瀨錢市郎殿ヨリ故北堂回忌ニ當リ當民團行旅病者收容費トシテ御寄附相成候條此段公告ス

明治四十四年二月十五日

京城居留民團民長　古城菅堂

▲京城手形交換高▼　二月五五日　金高　一一、六五七、五八八　枚數　三一

購買入札公告

一、二百磅硬鋼線千四百貫外一點

右購買ヲ競爭入札ニ附ス詳細ハ二月十五日ノ朝鮮總督府官報ヲ見ルヘシ

明治四十四年二月十六日

朝鮮總督府通信局

京城太平町一丁目南大門北入右側電話二二一番

多田不動產信託所

當所は太平町南大門北入右側新築落成

◎信託要項
△不動產放資金の運用信託
△土地建物鑑定調査測量
△貸地貸家田畑管理信託
△地料家賃小作料保護監督
△貸地貸家小作地無料案內
△土地家屋田畑賣買典當
△山林荒地鑛山賣買典當
△家屋月賦建築受託
△建物動產火災保險取扱

當所有市街宅地南大門外中央約四千坪破格貸地あり

雇入急告
○信託事務（二十才以上）一名
日語通譯（朝鮮人）一名
鮮語通譯（內地人）一名
○賣店事務（二十才以上）一名
女店員（內地人）一名
普通教育と確實なる保證人ある者雇入れ希望者は面談

賣店は太平町南大門北入右側新築落成

佐賀セメント

今回販賣致し候に付多少に不拘御用命被仰付度奉願候

佐賀セメント株式會社

京城代理店　南山町二丁目　電話三四四番　山村商店

株式會社　十八銀行京城支店

本店　長崎市築町

支店出張所　京城、仁川、龍山、木浦、元山、釜山、群山、馬山、全州

資本金三百萬圓

積立金及繰越金九十九萬五千圓

京城南大門通（電話四一〇）

銀行一般業務精々御便利に取扱申候

朝鮮貯蓄預金　一口拾錢以上何程にても御預り申候（利息日歩壹錢二厘）

其他日本朝鮮樞要地及露領浦鹽に爲替取引先有之

日本（熊本、大阪、佐世保、嚴原、五島、壹岐）長崎貯蓄銀行代理店（十八銀行京城支店）

來れり　寫眞撮影の時季

幻燈器械　寫眞器械

藥品材料一切

旅行用娛樂用營業用

直輸入

京城本町四丁目　織居寫眞機部　電話六二　振替貯金二三一

開業

營業種目　裁判所　京城府　警察署　民團役所　諸屆及申請書類一切の代書

京城本町一丁目民團役所前

小野萬平代書事務所（電話七〇五番）

小兒かんむしの良藥　保壽圓

效能　かんむし　ひきつけ　ちゝはき　[illegible]

價五錢●十錢●二十錢●五十錢

本舖　高橋盛大堂藥局

全國到る所の藥店にあり

代理店　京城本町五丁目　大盛堂　同南大門通三丁目　新井藥房

◎貸金　[illegible]確實なる有給者には極低利に融通可申候

池田商會製菓品

ライト　ムンライト

サンライス、朝鮮飴

人參飴、其他種々

◎朝鮮みやげ品各種　○食料品　[illegible]

池田商會　京城南大門通

池田商會出張所　電話五十[illegible]番

●諸公債諸株券 現物賣買 迅速確實に御取扱可申候兼業
既製洋服御小賣 官衙御用達
京城本町三丁目
大坂野村徳七代理店 [illegible]
電話(三九[illegible])

世界一の かぜねつの藥
蛇印アンチピリン丸
完全な る解熱最新藥
治る 治る 治る
直ぐ 治る
大阪東京 丹平商會
藥價 二日分拾錢 四日分拾五錢 七日分廿五錢
略効 かぜ・ねつ はやりかぜ りうまちす 頭痛・痛風

眼科
日曜及祭日は午後二時迄
京城本町二丁目憲兵分遣所前
江頭眼科醫院
(電話三十三番)
前京城病院眼科部長 醫學得業士 江頭富雄

弦齋流割烹
すゞ祢
南山町一丁目
電千五百二番



代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房
電話九〇四●一〇六八
振替口座京城十六番

寫眞半額
肖像入寫眞ハガキ進呈
本館義御愛顧に依り益々隆盛に赴き候に付此際萬端の設備を改善し熟練なる技師を増聘し最も嶄新なる技術を應用し撮影可仕候間尚一層御愛顧御來館之程希上候
追而當分御披露の爲め定價半額之上本館特製なる新案寫眞ハガキ進呈仕候
宴會又は集合の撮影は遠近に不拘費用自辨出張可仕候
京城壽町一丁目(中券番隣)(電話架設中)
金田玉翠館

京城本町二丁目百三十銀行横
野田齒科專門醫院
電話一〇四七番

商標
ドクトリ丸
はいどく・そうどく・りんびやう・きつけ下し
三包十錢、半週二十錢、壹週四十錢 貳週七十錢 參週壹圓、五週壹圓廿錢
ドクトリ丸は全國到る處の藥店に取次有御求の節は丁子の商標に御注意を乞ふ
本舖 大阪西區南四ツ橋 本林丁子堂
代理店 京城南大門通三丁目電話九〇四番一〇六八番振替口座朝鮮十六番 新井藥房

義齒術一般
京城明治町一丁目(森、村賀店隣)
榊忠司
取次電話六六九番

京城米倉町
龍山精米所
電話一二四番
各位御多祥奉賀候平素は一方ならぬ御引立を蒙り奉謝候今般京城米倉町(南大門内朝鮮人朝市場側)に新工場建築移轉致候原動機は最新式吸入瓦斯發動機を据付候のみならず精米設備に於ても萬般改良を加ゐ候間製品は從來より一段の精選を期し候何卒倍舊の御高庇を以て多少に拘らず御用命の程希上候

優等清酒


釀造發賣元
仁川港
吉金酒店
電話七六四番

エールリヒ氏新藥
新梅毒注射藥
右新劑サルバルサン到着本日より隨時注射治療致候(入院隨意)
一月十一日
京城南山町二丁目
松岡醫院
電話六七五番

焼野の雉子 夜の鶴
子を思はぬ親は無けれども
寒さはげしき昨日今日
冷ね性の娘等は
冷ね込みはせぬか頭痛眼まひは起らぬか子宮血の道は發せぬかと
思を千々に碎く時
冷ね込み豫防に特効ある
中將湯を飲ませたいとは
親の情



中將湯主治効能
●子宮病子宮内膜炎にて白帯多く前たれ又下腹腰足の引つり痛人
●婦人神經(ヒステリー)血の道にて氣鬱ぎ癇高ぶり物を苦し夜眠ず
●月經不順月經滯り等にて吹出物多く又何となく身體惡き人
●逆上頭痛眩暈ー肩こり腰足冷ね●息切れ動氣強く手足痺れ水腫
●十七八歳になりて月經少く血ぶどり又月經の前後に下腹痛む人
●白帯赤帯滯下多く顔色蒼白き人●冷症にて難産流産の癖ある人
●産前何となく常ならざる人、嘔吐、産後古血の滯り或は日立惡く
●此外子宮血の道月經不順に起因する諸症にてぶら〳〵と惡き人

定價	
二日分 二十錢	二週間分 一圓十錢
四日分 三十五錢	三週間分 一圓六十錢
一週間分 六十錢	五週間分 二圓五十錢

本舖
東京市日本橋通四丁目 津村順天堂 電話本局六二番六三番 振替口座六〇八番
大阪市堺筋大寶寺町南 津村順天堂 電話南廿五番 振替口座大阪四五六番
●中將湯は新井藥房其他の藥店にて販賣す

警視廳内 陸軍 海軍 大阪 協會 其他各 本部
消防 本部 両省 務省 内 信省 部 遞 信省 文部省 司法省 消防部 本府 各縣
警察署より有効品に付多大の賞讃を博し優秀なる御證明書を下附せらる
抑も火災は諸君御承知の如く風呂場ランプ炬燵等の小火より起るものなれども火事と火は軒を昔め始め警鐘急報し消防夫の乗り蒸氣喞筒の來る此時既に遲し一點の星火遂に燎原の火となり幾千萬圓の財産を鳥有に歸せしむ是を未前に防ぎ安全に保持するには理想的完全の豊島式改良ポンプは實に火を防ぐは水の外に二三本備付置ば二階三階の高き不便の處にても老若男女を不問自由に運搬使用し得らる廉にして急ち防止す●本器を社佛閣諸會社諸興業場等の備付必要也本器にて上下にゴム亦ホースの取付自由なる急場に間に合ふ●殊に故障無く敗ー易き器具を使用せず利益ならず輕便改良にて本器は是を附着せず


發賣元 大阪西區南堀江通三丁目 豊島商店喞筒部 振替大阪一〇三一三番
東京京橋區南金六町 宇都宮商店喞筒部
横濱相生町六丁目 宮商店喞筒部
特約販賣店 朝鮮京城黄金町 井出商店

弊館には夜警の設備有り
御客樣の安全此の上なし
陸軍指定旅館
鐵道院指定旅館
仁川水産組合指定旅館
第一各保險會社指定旅館
仁川海岸
旭屋旅館
電話二五一

朝鮮牛種及牛乳改良元祖
消毒純良
高等牛乳
京城南大門外
荒井牧場
(電話一〇五六番)
當場飼畜の乳牛は悉くエーアシヤ、ゼルシ、ホルスタイン等最も優逸なる洋牛而已なるが故搾取する所の牛乳は極めて純良無比なり
當場畜舍及殺菌室等其他一切の設備の完全なる他に比類なし
當場には種畜牛數頭飼養致候間種付御希望の方は御申込被下度候
當場には御進物用牛乳切手發賣致候
其他牧畜に關する一切の業務は叮嚀懇切に取扱可申候間御用命之程希上候
龍山本町三丁目
龍山販賣所
(電話二〇二番)

資本金一千萬圓
積立金六百〇五萬圓
明治六年設立
株式會社第一銀行京城支店
京城南山町三丁目
電話一一番 六一一番
振替貯金口座朝鮮一一番
銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候

今般弊社境内高燥清淨なる衛生地域をトし完全なる病畜舍及治療室を新設し技術鍛錬の專門獸醫を傭聘し汎く大小動物家禽の診療に從事す
入院隨意
附屬 京城家畜病院
弊場種畜牛、豚、山羊、家禽等繁殖致居候間隨時御來場御購求の程願上候
京城南大門外
韓國畜産株式會社
(電話八八番)

入院隨意
京城壽町三丁目(電話三七八番)
中島醫院
院主醫學得業士 中島貞信

キ
二月中出帆廣告
海州行 天草丸 十四日、十八日、廿二日、廿八日
安東丸 十六日、二十日、二十四日、廿八日
濟州島行 漢江富里浦電串行 三省丸 十四日、二十日、廿四日、廿六日
千葉丸 十八日、廿日、廿二日、廿四日、廿六日、廿八日
成歡丸 十四日、十六日、廿日、廿二日、廿八日
群山行 千葉丸 成歡丸 三省丸 十四日、十六日、
十九日、二十一日
合資會社 仁川本町四丁目 秋田商會船舶部